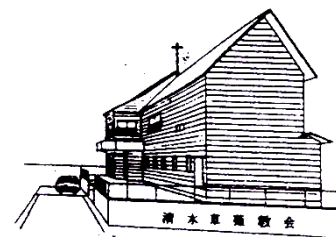


《今朝の聖書から》“この人が多くのしるしを行っているのに、お互いは何をしているのだ（11：47）”という言葉にまず着目しましょう。マリヤのところに來られたイエス様は、“ラザロのよみがえり（先週の個所ですが）”という、根本的なしるしを行われました。聖書のテーマとも言うべき根本的なこと。“罪の結末である死”に直面して、何もできない人々の目前で、その死に打ち勝たれました。ヤコブ書1：15には“欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みだす”とあります。と自力ではどうしようもない、罪の本質を説明していますが、一人の人によって人間に入りこんだ罪（ローマ5：12）は、いまや全ての人が悩まなければならない、すなわち全ての人から救われなければならない、死と直面され勝利をされたのです。ナインでの“やもめの息子のよみがえり（ルカ7：11～）”の出来事をはじめ、私たちの経験する、もっとも深いところにまで、降りて来て下さって、“死の法則”を無視して“出てきなさい”とラザロが声をかけられたように、伴ってくださったのです。今も伴ってくださっているのです。実に私たちは、主のもたらしてくださった永遠の命に入れられることを信じて、洗礼を受けたことをもう一度思い出しましょう。赦されたものが知るのがキリストの義による命であり、罪が知るのは、滅びなのです。問題がこのような展開を見せているのに、ここでも罪が立ちはだかるのです。そして、私たちが救われなければならないことを証明するかのように、罪のもたらす推論も理解できるのです。47節の内容は“勢力争い”です。ここでカヤパの名が出てきますが、この大祭司は、“社会全体”のために、このイエス一人を殺してでも、早期に抵抗勢力を片づけなければならない、と扇動し、あおりたてます。多くのユダヤ人がイエスを信じて（11：45）、その数が多かったことを表すかのように、反イエスの勢力もまた、まとまっていくこととなります。イエス様は弟子達を伴われ、エルサレムの東、エフライムに退かれます。ユダヤの人々がイエスを殺そうと決めたからです（11：53）。大祭司は、皮肉にも十字架上のイエス様の死を、52節で“散らされたすべての神の子の救いのため”と預言しています。救いと滅びの只中で救いを見上げ、信じ確信して過ごしましょう。

週報

2008年 10月 5日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp